

三協興産

働く楽しさを感じてほしい

新たな障がい者雇用の形

多様な廃棄物の処理・リサイクルを進める三協興産(川崎市、堀切勇真社長)はCoCoStepという障がい者雇用の新たな形を作り上げており、この取り組みが5月で2年を迎える。本取り組みでは複数の社会福祉法人やNPOなどの障がい者支援施設と連携し、焼却などに回っていた廃棄物を分別することでリサイクルを促進している。直接の雇用という形態をとらないものの、支援施設と連携することで、参加者が楽しんで働くことができる取り組みとして注目されている。

取材したこの日は段ボールに入った戻り品を段ボールから取り出し分別する作業で、コロナ禍を考慮し、一度に5〜10人程度が専用スペースで作業を行っている。次々と段ボールを開け、その段ボールと中身を分別する。作業には同社社員がサポートする他、支援施設のスタッフも同行している。参加者は時折笑みを浮かべ、楽しく作業しているのが印象的だ。作業の内容はその都度異なり、参加者にもそれぞれ得意不得意があるため、それぞれの個性を理解している支援施設が、同社担当者と連携しその日の作業内容と考え合わせて適切な人選を行っている。

また作業内容がその都度異なることも、個々のスキルアップにつながるという。

また本取り組みではノルマを課すのではない



参加者から時折笑みがこぼれる

また本取り組みではノルマを課すのではない

.....